専門分野

看護の統合と実践（講義７単位・実習３単位）

１．看護の統合と実践の考え方

看護を取り巻く環境は、慢性疾患の増加、急速に進む少子高齢化、医療技術の進歩等により大きく変化し、患者の視点に立った質の高い看護の提供が求められている。一方で、看護業務の複雑化・多様化、国民の医療安全に関する意識の向上等の中、学生の看護技術の実習範囲や機会が制限される傾向にある。その結果、臨床現場からは卒業時の実践能力の低下、看護技術到達度に差があると指摘されている。現教育と臨床現場の乖離を抱えた状況の中で、これまでの理論中心の学びから、臨床実践に適応できる問題解決能力や看護実践能力を備えた看護師の育成に向けた教育が求められている。より、臨床業務に接近した状況での、知識や技術の統合が求められている。こうした状況に対応するために、「看護の統合と実践」を位置づけ、対象のおかれている多様な場・状況・状態に応じた看護を実践できる能力を養うことをねらいとした。具体的には組織における看護師の役割を理解すること、チーム医療を担う看護師としてのフォロワーシップ、リーダーシップを理解し看護がマネジメントできること、医療現場で重要となる医療安全や危機管理を理解し、災害直後から支援できる看護の基礎的能力を身に付けること、そして、社会において、広い視野に基づき看護師として多職種と協力ができることを学ぶ。また、既習の知識・技術の統合をはかるとともに、看護の専門性、ケアの質の向上を追究する態度を身に付け、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力の習得をめざす。その過程を通し、自己の課題を明確にし、看護に対する理解を深めていけるよう支援する。

２．目的

１）基礎分野から専門分野で学習した内容を活用し、臨床の現場における環境の中で、看護を提供する方法を学ぶ。またそれらを今後の臨床実践に活かす。
２）看護に対する理解を深め、自己の課題を明確にする。

３．目標

１）看護をマネジメントできる基礎的能力を養い、看護業務を行う一員としての役割や責任について理解する。
２）チーム医療及び多職種との協働の中で、看護師としてのリーダーシップ及びフォロワーシップを理解する。
３）災害看護の基礎知識を学び、必要な技術の習得及び被災者への援助について考える。
４）医療安全の基礎知識を学び、安全管理について考える。
５）既習の知識・技術を統合し臨床現場で看護実践できる基礎的能力を身につける。
６）研究の過程を体験し、看護に対する考え方、自己の課題が表現できる。
７）看護実践における組織の実際や方法について学び、看護師としての責任と自覚を持つ。

専門分野・看護の統合と実践　授業計画

授業科目及び時間数	災害看護　1単位　30時間
開講時期	2年次 前期
担当教員	川井和枝・萱場健雄・田村万寿美・山田美季

＜科目のねらい＞

震災、風水害等が多くみられる今日、資源や人材が潤沢にある平常時と異なる医療環境を学び，臨機応変対応できる柔軟性や，極限状態に追い込まれている対象との援助的な人間関係を築く能力を修得し，緊急時に対応できる技術や，災害の及ぼす生命や健康生活への被害を極力少なくする活動を通して災害時における看護の役割が考えられることが求められている。

＜到達目標＞

1. 災害に対する基礎的知識及び災害時の問題を知り、災害救護合宿を通して被災者の抱える身体・心理・社会的な問題、看護の果たす役割について考えることができる。
2. 災害時に必要な技術を修得することができる。

授業計画・内容・担当教員

1回目	1. 災害医療の基礎 1）歴史　2）種類　3）サイクル	講義（川井）
2回目	1. 災害各期の特徴 2. 災害に対する備え	講義（川井）
3回目	1. トリアージの原則 2. トリアージの実際	講義（川井）
4回目	トリアージタックについて	講義（川井）
5回目	1. 亜急性期～中長期の看護 2. こころのケア	講義（川井）
6回目	心のケア　事例検討	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（川井）
7回目	1. START法について 2. トリアージ演習	講義・演習（川井）
8回目	三角巾の取り扱い	講義・演習（川井）
9回目	避難所運営ゲーム	講義・演習（川井）
10回目	災害訓練	訓練 （萱場・田村・山田）
11回目	災害訓練	訓練 （萱場・田村・山田）
12回目	災害訓練	訓練 （萱場・田村・山田）
13回目	災害訓練	訓練 （萱場・田村・山田）
14回目	災害訓練のまとめ	訓練 （萱場・田村・山田）
15回目	終了試験	（萱場）
評価方法	筆記試験（100%）	
受講生に対するメッセージ	健康に留意し積極的に参加してほしい。	
テキスト	系統　災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践③　　医学書院	
参考書		

専門分野・看護の統合と実践　授業計画

授業科目及び時間数	看護管理Ⅰ　1単位　15時間		
開講時期	2年次　後期		
担当教員	国京則幸・上田理恵子・杉村きよ美	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　看護業務上の危険・事故原因について理解し、医療安全管理（感染対策含む）について考える。
＜到達目標＞
　1.医療システムの中で危険因子を知り、看護技術提供時における事故防止のための知識・技術がわかる。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1.　医療事故に伴う看護職の法的責任　その1 1)法的責任とはーその捉え方行政法上の責任／民事責任／刑事責任 2)看護師の資格と看護業務の法的構造 免許とは／業務の法的位置づけ・免許の取得・免許の取り消し・再免許 3)医療安全の考え方 具体的事例（民事責任／刑事責任）の紹介と解説から	講義(国京)
2回目	2.　医療事故に伴う看護職の法的責任　その2 1)民事責任　ー　損害賠償請求を例に　　過失責任主義 2)民事責任　　債務不履行責任／不法行為責任／使用者責任 3)損害賠償の成立　　4)紛争処理方法　ー　紛争にならないために	講義(国京)
3回目	1.　医療安全の基本的考え方 1)医療安全を学ぶことの大切さ　2)ヒューマンエラー 2.　安全を阻害する因子・看護事故 1)事故防止の考え方を学ぶ　2)医療事故の構造 3)看護事故防止の考え方	講義（上田）
4回目	3.　看護事故防止及び組織における医療安全管理 1)診療の補助の事故防止　-患者に投与する業務における事故防止- 2)診療の補助の事故防止　-医療行為の観察・管理における事故防止 3)療養上の世話の事故防止	講義・演習（上田）
5回目	4.　看護事故防止及び組織における医療安全管理　その2 4)業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 5)医療安全とコミュニケーション 6)看護師の労働安全衛生上の事故防止 7)組織的な安全管理体制への取り組み	講義（上田）
6回目	5.　看護師が関与したヒヤリ・ハットや医療事故 6.　事故発生時の対応及び分析方法 1)課題について検討する　2)ロールプレイ等の実習 7.　医療安全対策の国内外の潮流	講義（上田）
7回目	1.　感染管理 1)医療関連感染とは　2)医療感染対策における看護師の責務と役割	講義（杉村） 感染管理認定看護師
8回目	3)標準予防策と感染経路別予防策 4)手指衛生の方法、個人防護用具の使い方	講義（杉村）
評価方法	医療安全（上田）：40% 終了試験（筆記） （国京）：30% 終了試験（筆記） （杉村）：30% 終了試験（筆記）	
受講生に対するメッセージ	非常に重要な科目となる。真剣に参加してほしい。	
テキスト	系統看護学　専門分野　医療安全　看護の統合と実践②　医学書院	
参考書		

専門分野・看護の統合と実践　授業計画

授業科目及び時間数	看護管理Ⅱ　1単位　15時間		
開講時期	3年次　前期		
担当教員	杉村きよ美	実務経験	有

＜科目のねらい＞
1. 対象者に質の高いサービスを提供する為の、看護管理の基礎知識を学ぶ。
2. 組織におけるチーム医療及び他職種との協働について学び、看護組織の業務を行う一員としての役割や責任について理解する。

＜到達目標＞
1. 組織について学び、病院等の組織における看護部門の位置づけ、役割、責務についてわかる。
2. 医療・看護の質向上における看護管理の重要性を理解する。
3. 看護管理者として必要なマネジメント能力について知る。
4. 看護管理の対象（人・物・金・情報）とその活用について理解する。
5. 看護サービスの質を向上させる活動・体制についてわかる。
6. 労働者の果たすべき責任、労働者を守る体制についてわかる。
7. 社会人基礎力について学ぶ。また、看護専門職としてキャリアを重ね成長し続けるために必要なことを考える。
8. 個人情報を扱う専門職であるという自覚を持ち、その保護の方策について考える。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 看護部門の組織 1）組織　（1）組織と組織理念　（2）組織の基本となる原則 2）病院組織における看護部門の位置づけ・役割・責務 （1）医療機関の組織構造（2）看護部門の位置づけと役割・責務	講義
2回目	2. 管理とは 1）マネジメントプロセス（計画・組織化・指揮・統制） 2）マネジメントサイクル（計画・実行・評価・処置改善） 3）マネジメントの役割・マネージャーとは・マネージャーの仕事	講義
3回目	4）マネジメントの能力 （1）セルフマネジメント（2）リーダーシップ　（3）コーチング （4）ナレッジマネジメント（5）動機づけ （6）コンフリクトマネジメント　（7）ストレスマネジメント （8）アサーティブコミュニケーション （9）協働・交渉・コンサルテーション （10）パワーとエンパワメント　（11）変化と変革	講義
4回目	3. 看護サービス管理とは 1）定義 2）看護管理の対象（1）人　（2）物　（3）金（4）情報（時間） 3）財務管理（財務諸表・経営管理指標） 4. 看護サービスの質の保証とその評価 1）看護サービスの質の保証 （1）看護単位の構成・体制（2）看護の標準化とクリニカルパス 2）看護サービスの質の評価の指標・評価 3）看護サービスの質の向上の取り組み	講義
5回目	5. 人事・労務管理 1）人事管理 （1）人材フローのマネジメント （2）評価システム…目標管理・人事考課、報酬システム （3）能力開発システム　（4）労務管理 2）労働安全衛生管理 （1）メンタルヘルス（2）健康診断 （3）施設内暴力　（4）ハラスメント　（5）労働災害	講義

6 回目	6．人材育成 1）社会人になるとは…　　社会人基礎力 2）専門職　（1）定義及び看護の専門職（2）看護職の自律性と責務 3）看護の教育体系 （1）新人看護職員研修制度（2）継続教育 4）キャリア開発　（1）キャリアとは　（2）看護職のキャリア形成 7．情報管理　1)情報とは 2）医療情報システム　3）個人情報管理	講義
7 回目	8．看護と経営 1）戦略的経営の枠組み （1）医療経営とは（2）組織分析（3）分析手法（SWOT 分析）（4）BSC 2）病院の経営　3）看護職の経営参画 （1）診療報酬・介護報酬　（2）看護業務を加算要件に取り込む 4）財務管理　（1）財務諸表　　（2）経営管理指標	講義
8 回目	終了試験	
評価方法	終了試験（筆記）　90% 課題レポート提出　10％	
受講生に対するメッセージ	・看護管理は組織で働く全ての看護要因が取り組むことであると理解してほしい。 ・医療施設や福祉施設の経営には、看護部門が大きく関わっていることを理解してほしい。 ・一人一人の看護職が医療・看護の質向上に向けて努力することが、医療・看護の全体の質の向上に繋がる。その実行は組織発展に繋がる。 ・組織の中で働くためには、社会人基礎力を身につけるよう日々努力してほしい。	
テキスト	系統看護学　専門分野　　看護管理　看護の統合と実践①　医学書院	
参考書		

専門分野・看護の統合と実践　授業計画

授業科目及び時間数	ケーススタディ　1単位　15時間		
開講時期	3年次　前期		
担当教員	黒川みゆき	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　看護研究に取り組み、得られたことを看護実践に活用していく力が必要である。看護研究は看護実践の発展にとって重要であり、看護師として身に付けるべき能力である。卒業時までに看護のよき実践者となるために、自己の看護観を見つめ直し、看護を探求する姿勢を持つことが求められている。本授業において、実習での事例を論文にまとめ、自己の課題を明確にしていく。
＜到達目標＞
1.　研究方法の習得、論理的思考を身に付ける。
2.　ケーススタディを通し、自己の課題を明確にする。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 授業計画 2. ケーススタディの進め方 3. 計画書の作り方 　1）研究テーマ、研究動機、研究目的の再確認 　2）文献検索を行う 　3）計画書の見直し 　4）倫理的配慮を考える	講義・演習
2回目	1. 倫理的配慮 　1）研究趣旨の説明と同意を得る 　2）情報の取り扱い 2. 実習での学びを基に研究課題を選定 　1）実習での事例を基に、自己の学びから研究課題を選定し明確化する 　2）文献検索を行う 　3）研究計画書を修正する	講義・演習
3回目	1.論文の書き方 　1）ルール　2）はじめにの構成条件 　3）キーワード　4）著者名 　5）研究方法　6）倫理的配慮 　7）結果　8）考察 　9）結論　10)引用参考文献 2.原稿の規定	講義
4回目	1.論文の作成（指導教員の助言を受け、論文を作成する）	演習
5回目	1.論文の作成	
6回目	1.論文の作成	
7回目	1.発表準備　（発表資料の準備・印刷、発表原稿の準備）	
8回目	1.口頭発表　（全体発表及びグループ発表）	プレゼンテーション
評価方法	ルーブリック評価（100%）	
受講生に対するメッセージ	ケーススタディのプロセスを踏みながら実習を振り返ることで、自分の看護について考える機会となり、リフレクティブな学びとなることを期待している。	
テキスト	系統看護学講座　別巻　看護研究　医学書院	

専門分野・看護の統合と実践　授業計画

授業科目及び時間数	総合看護技術Ⅰ　１単位　15 時間		
開講時期	２年次　後期		
担当教員	黒川みゆき	実務経験	有

＜科目のねらい＞

3 年次４月から始まる領域実習を控え、学校での学びが臨地実習で活かされないことが危惧される。実習での学びを効果的にするために、実際の臨床場面をリアルに再現した状況で皆さんがその経験を振り返り、ディスカッションを通してこれまでに学んだ専門的な知識・技術・態度の統合を図ることを目的とする。

＜到達目標＞

1. 必要な観察項目がわかり観察ができる。観察結果に基づくアセスメントができる。
2. アセスメントに応じた看護援助を考え、行った行為を省察できる。

授業計画・内容・担当教員

1 回目	1. 総合看護技術について 2. シミュレーション学習とは	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
2 回目	1. シミュレーション学習 事例１ ※事例は実習中、学生が遭遇する可能性があるものを提示する。	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習 ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
3 回目	1. シミュレーション学習 事例２	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習 ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
4 回目	1. シミュレーション学習 事例 3	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習 ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
5 回目	1. シミュレーション学習 事例 4	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習 ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
6 回目	1. シミュレーション学習 事例 5	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習
7 回目	1. 技術試験について （1）事例の提示 （2）事前学習　技術練習	講義・演習
8 回目	1. 終了試験	
評価方法	技術試験（70%）振り返り（30%）	
受講生に対するメッセージ	2 年次の最終科目となります。臨地で経験することが予測される場面を設定し援助を実施します。その場面ごとに提示された課題を達成していくことが求められます。授業前にはその場面で必要な学習の課題が提示されます。提示された内容以上に学習が深められていたほうが学びは大きくなります。積極的に演習に取り組み学習を深めてほしい。デブリーフィングが重要な授業になります。積極的に自己の気づきを発信できるようにしてください。	
テキスト		
参考書	今まで使用した教科書	

専門分野・看護の統合と実践　授業計画

授業科目及び時間数	総合看護技術Ⅱ　2単位　30時間		
開講時期	3年次　前期		
担当教員	勝治乃武子	実務経験	有

＜科目のねらい＞

基礎看護教育で育成される看護実践能力と医療現場から求められる看護実践能力との間の乖離が指摘され、看護技術を含めた看護の基礎教育強化が求められている。総合的な判断力を育成し、自律した看護職の育成を目指すためには、一般教養を含む基礎的な教育と看護の専門的な教育とを自らが統合できる能力を養うことが不可欠である。ここでは看護実践能力の向上のために看護基礎教育で修得する看護技術を活用し、臨床現場で求められる患者状況に応じて優先度を考慮した対処行動や安全に配慮した行動を体験させることで、既習の知識・技術を統合し臨床現場で看護実践できる基礎的能力を身につけるものとする。

＜到達目標＞

1.既習の知識・技術を統合し臨床現場で看護実践できる基礎的能力を身につける。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1.総合看護技術について　2.シミュレーション学習とは	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
2回目	1.シミュレーション学習 事例１　母性看護　生殖器の復古を促す支援 ※事例は臨床実習中、学生が遭遇する可能性があるものを毎年提示する。	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習 ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
3回目	1.シミュレーション学習 事例１　母性看護　生殖器の復古を促す支援	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習 ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
4回目	1.シミュレーション学習 事例２　小児看護　喘息患児の看護	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習 ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
5回目	1.シミュレーション学習 事例２　小児看護　喘息患児の看護	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習 ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
6回目	1.シミュレーション学習 事例３　地域在宅看護　訪問時の面接技術	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習 ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
7回目	1.シミュレーション学習 事例３　地域在宅看護　訪問時の面接技術	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習 ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
8回目	1.総合看護技術の複数患者の受け持ちについて 事前学習　技術練習	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
9回目	1.シミュレーション学習　　複数患者	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習・ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸﾞ
10回目	1.シミュレーション学習　　複数患者	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ学習・ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾌｨﾝｸ
11回目	1.OSCE（技術試験）について （1）事例の提示　（2）OSCE方法　（3）事前学習　技術練習	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 事前学習・技術練習
12回目	1.OSCE（技術試験）について （1）事例の提示　（2）OSCE方法　（3）事前学習　技術練習	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 事前学習・技術練習
13回目	1.OSCE	技術試験
14回目	1.OSCE	技術試験
15回目	1.終了試験	筆記試験
評価方法	筆記試験（50%）　技術試験（50%）	
受講生に対するメッセージ	3年次の授業です。臨床で経験することが予測される場面を設定し援助を実施します。その場面ごとに提示された課題を達成していくことが求められます。授業前にはその場面で必要な学習の課題が提示されます。提示された内容以上に学習が深められていたほうが学びは大きくなります。積極的に演習に取り組み学習を深めてほしい。デブリーフィングが重要な授業になります。積極的に自己の気づきを発信できるようにしてください。技術試験については合格点に到達するまで繰り返します。	
テキスト		
参考書	今まで使用した教科書	